

単元名 1 学びをひらく ー漢字1 漢字の組み立てと部首
配当時間 1時間

単元の目標 (1) 漢字の構成部分としての「偏旁冠脚」「へん・つくり・かんむり・あし・たれ・によう・かまえ」を理解することができる。
 主な部首の名称を、成り立ちを踏まえて理解することができる
 (3) 漢和辞典を活用して、漢字の成り立ちや構成部分を調べようとする。

標準的な展開例

10210107_001

【準備等】漢和辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 漢字の組み立てや部首について知る。 ○「休」の漢字を二つに分ける。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★ 漢字の組み立てや部首について知ろう。 ○漢字を組み立てている部分が、位置によって分類されることを知る。 ○分類した部分に、呼び名があることを知る。 ○部首について知る。 ○「練習問題」(p. 39)と「漢字に親しもう1」(p. 40)に取り組む。	・画用紙で、にんべんと「木」の部分に分けたものを提示する。 ・「へん・つくり・かんむり・あし・たれ・によう」に分類できることを知らせる。 ・画用紙に漢字を書き、二つに分けられるように作っておくとよい。 【評】 漢字の組み立てを理解する活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・「教科書の表」(p. 38～p. 39)を活用するとよい。 ・似ているものを集めて同じ部類にまとめたものを「部首」ということを理解させる。 ・部首の扱いは、漢和辞典によって異なることがあるので注意させる。 【評】 主な部首の名称と成り立ちを理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・漢和辞典を活用する。

【備 考】

中学校における本格的な国語の学習の最初の段階である。この単元では小学校で身に付けた国語の力を確認させることが大切である。そのため、親しみやすい内容の物語を読むことを通して、中学校での国語の学習範囲や学習方法などへの見通しをもたせたい。

「シンシユン」は他者との違いを認め合い、それぞれの立場を尊重していく内容となっている。これは道徳のB- (9) 相互理解・寛容にあたり、これを機会に級友との仲を深めさせたい。本教材は、中学校の国語学習において情報編集力を育成することをねらった最初のものである。領域としては「知識・技能」に当たるものの、ここでの学習を、説明する力の基盤として捉え、「思考・判断・表現」の領域にも反映させることを念頭に置いて指導に当たりたい。

「情報を整理して書こう」では、物事を説明する場合に「観点」があることを意識させ、情報を収集する力を育てる一歩としたい。「観点」を明確にすることで、取材する際に情報が分類整理しやすくなり、目的や相手に応じて何を語るべきなのかがはっきりとするように工夫させたい。

また、日常生活で行われる情報の伝達は、整理された分かりやすいものばかりではなく、様々な情報が雑多に届けられる中で、自分への必要度に応じて語句を書き取らねばならないときもある。そのため、「情報を的確に聞き取る」では、自分にとって必要な情報を的確に聞き取る練習をして、実用的なメモを取り、生活に生かせるようにすることが重要である。「情報整理」を通して、様々な事柄を真剣に考え、知識や理解を深めることで、言葉の力を鍛えていきたい。また、情報を多角的に分析し、根拠に基づいて判断することで、論理的思考力を育てていきたい。

「漢字の組み立てと部首」では、漢字の学習に苦手意識をもっている生徒にも、中学校での学びに希望と期待をもたせたい。小学校で履修した漢字の成り立ちを振り返らせる活動でなぞなぞに取り組みさせるなど、意欲的な活動の工夫を考えていきたい。また、「形・音・義」の体系を成して組み立てられている漢字の系統性に注目させ、漢字の成立や発展に着目した歴史的文化的な視点を中学生にもたせることも大切である。